

令和

2 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	駐輪場管理運営事業	会計名称 予算科目	一般会計 7 款 1 項 1 目	事業番号	3090	担当課 所属長名	経済雇用戦略課 小笠原幸男
事業評価の有無	■ 評価対象事業 <input checked="" type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)					担当責任者名	池富隆博
法令根拠等	自転車の安全利用の促進及び自転車等の駐車対策の総合的推進に関する法律					実施期間 【開始】	令和／平成 18 年度
総合計画での位置付け	産業振興都市の創造 活力ある商業・工業の振興					【終了】	令和 年度(予定) ■ 設定なし
総合計画における本事業の役割	通勤労働者の利便性や商店街への集客環境を充実することにより、商工業の振興に繋げる。						
事業の対象	JR利用者 ほか	事業の目的	JR駅周辺の整備と環境美化				
事業の内容 (整備内容)	JR駅（伊予市駅・鳥ノ木駅・中山駅・上灘駅・下灘駅）の周辺環境美化及びトイレ清掃並びに駐輪場の整理、放置自転車の撤去	昨年度の課題に対する具体的な改善策	JR伊予市駅前の駐輪場管理を業者委託しており、今年度の作業職員減により、トイレ清掃も併せて業務委託したことから、相応の管理費がかかっているが、職員が作業していた時よりも経費が安くなり、受託業者も適切な管理を行っていることから、雇用の観点も含めれば妥当であると考える。				

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳（千円）							事業活動の実績（活動指標）						
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	2年度予定	9月末の実績	2年度実績	
直 接 事 業 費	8,882	4,326	0	0	0	5,013	JR駅の整理等業務委託数 放置自転車の処分数	施設 台	6	6	7	7	
財 源 内 訳	国庫支出金	0	0	0	0	0							
	県支出金	0	0	0	0	0							
	地 方 債	0	0	0	0	0							
	そ の 他	0	0	0	0	0							
	一 般 財 源	8,882	4,326	0	0	5,013							
職員の人工（にんく）数	0.30	0.30				0.30		台	24	6	0	0	
1人工当たりの入件費単価	7,992	7,812				7,812							
※ 直接事業費+入件費	11,280	6,670				7,357							
主な実施主体	伊予市駅<シルバー人材センター>他	実施形態（補助金・指定管理料・委託料等の記載欄）	管理委託料（3,147千円）										
向こう5年間の直接事業費の推移（千円）							3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	5年間の合計	
							4,400	4,400	4,400	4,400	4,400	22,000	
成 果 指 標	指 標	放置自転車数				単位 台	→	区分年度	前 年 度	2 年 度	3 年 度	目標	毎 年 度
	指標設定の考え方	駅前広場等の良好な環境を確保し、その機能低下を防止する必要があると認められるときは放置自転車等の撤去等に努めなければならないため。				目標							
	指標で表せない効果					実 績		24	7				

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		JR伊予市駅前でバイク置場と自転車置場のエリア分けにより、管理業者と利用者とのトラブルが発生した。現場での周知方法の検討と、管理業者への指導が必要である。 JR鳥ノ木駅駐輪場の屋根のパネルが度々破損し、修繕料が嵩むほか、事務効率も悪くなっている。素材を変えるなどの検討が必要である。									
事務事業の評価	自己判定～担当責任者（	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施設の目的を果たすことができない。 社会情勢等の二つに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B 5~ 7 : C 3~ 4 : D	A	事業成果・工夫した点	JR鳥ノ木駅駐輪場の屋根（パネル）が老朽化により度々破損し、利用者に不便をかけることが例年発生していることから、今年度、すべての屋根のパネルをより耐久性のある素材に変更した。今後において、修繕の回数の減少、事務の効率化に努めた。		
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B 5~ 7 : C 3~ 4 : D	A	事業の苦労した点・課題	JR伊予市駅前駐輪場では放置車両が多いほか、バイク置場と自転車置場のエリアにおいて業務委託業者と利用者でトラブルとなるケースがあった。今後も委託業者と利用の周知や業務方法の検討など、綿密な協議を行う必要がある。		
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 今のことろ市の関与・実施は妥当と判断できる。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B 5~ 7 : C 3~ 4 : D	A	手段の最適性	現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活・他事業との統合・連携等の検討の余地がある。		
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B 5~ 7 : C 3~ 4 : D	A	コスト効率	既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。		
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B 5~ 7 : C 3~ 4 : D	A	施策への貢献度	施策推進に向け、効果を認めることができる。 施策推進につながっていない。		
	一 次 判 定 ～ 所 属 長 ～	効率性	市民（受益者）負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B 5~ 7 : C 3~ 4 : D	A	手段の最適性	現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活・他事業との統合・連携等の検討の余地がある。		
			目的の妥当性	5 4 3 2 1 概ね、施設の目的に沿った事業である。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B 5~ 7 : C 3~ 4 : D	A	社会情勢等への対応	現状では施設の目的を果たすことができない。 社会情勢等の二つに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。		
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B 5~ 7 : C 3~ 4 : D	A	市の関与の妥当性	社会情勢又は行政管理事務上に対しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。		
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B 5~ 7 : C 3~ 4 : D	A	成果向上の可能性	既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。		
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B 5~ 7 : C 3~ 4 : D	A	施策への貢献度	施策推進への貢献は多大である。 施策推進に向け、効果を認めることができる。		
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進につながっていない。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B 5~ 7 : C 3~ 4 : D	A	手段の最適性	現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活・他事業との統合・連携等の検討の余地がある。		
		効率性	コスト効率	5 4 3 2 1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B 5~ 7 : C 3~ 4 : D	A	市民（受益者）負担の適正	満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。		
			市民（受益者）負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B 5~ 7 : C 3~ 4 : D	B	方向性	■ 事業継続と判断する。 □ 事業縮小と判断する □ 事業廃止と判断する (判断の理由) JRの利用促進を図るため、事業を継続する必要があると判断する。		
			方向性	5 4 3 2 1 現状では施設の状況把握に努めながら、適切かつ的確な管理運営を行う必要がある。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B 5~ 7 : C 3~ 4 : D	B	所属長の課題認識	対象施設の状況把握に努めながら、適切かつ的確な管理運営を行う必要がある。		

施 策 を 踏 ま え た 判 断	二 次 判 定	<input type="checkbox"/> 一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	 <p>指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。</p>
		<input checked="" type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
		<input type="checkbox"/> 一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/> 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。	

行政評価委員会の答申	外 部 評 価	答申の内容
------------	------------------	-------

今後の方針性 (ACTION)

の経 最 終 者 判 会 議	事業の方針性	コメント欄
	<input type="checkbox"/> さらに重点化する。 <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する。 <input type="checkbox"/> 見直しの上、継続する。 <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。 <input type="checkbox"/> 事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。	